

卒業後の進路希望と養護実習の成果との関連性

Relevance of the Practical Training for Yogo Teachers to the Course after Graduation

内山 有子*

要 旨

養護教諭をめざす学生が臨む養護実習は、養護教諭の職務や専門性の理解とともに、自分が理想とする養護教諭観の確立につながる重要な機会である。しかし、教員免許状取得者は必ずしも「教員として就職すること」を目指しているわけではなく、養成課程の中で自分の適性や採用試験の難しさなどに気付き、就職先として学校現場を選ばない学生も一定数いる。そこで、養護教諭免許状の取得を目指す大学生を「養護教諭としての就職希望者」と「一般職への就職希望者」にわけ、養護実習により付与された成績や自己評価における差異について検討を行った。

結果、養護教諭希望者のほうが実習に積極的に取り組み、「教育への熱意と実習意欲」と「養護教諭の職務」に関して高い自己評価をしていることがわかった。しかし、実習校から付与された成績については、8項目中「養護教諭の職務」以外に有意差は認められず、実習生と実習指導者の認識に差異があった。実習校が実習生を受け入れる負担や不安を考慮すると、教員養成校でのカリキュラムが養護実習や教育実習という臨地実習の経験と融合され、卒業後の進路として学校教員に繋がるように、今後、さらなる検討を重ねていく必要性が示唆された。

1. はじめに

文部科学省の養護教諭の免許資格を取得することのできる大学調査¹⁾によると、現在、養護教諭免許状を取得できる大学は国公立を合わせて全国に約140校あり、2018年度は専修、一種、二種合わせて約4,000人が養護教諭免許状を取得している²⁾。また、養護教諭養成課程の内訳は看護学部、教育学部を中心とし、心理学部、福祉学部、家政学部、体育学部と様々であり、大学の特性による専門性を有した養護教諭が養成されている。

養護教諭をめざす学生にとって学校の保健室勤務を中心に実施される養護実習は、大学で学んだ知識や理論を実践的に経験する機会であり、養護教諭の職務や専門性の理解とともに、自分が理想とする養護教諭観の確立につながる実習である。しかし、養護実習を含む「臨地実習」は教育職員免許法施行規則³⁾により1種免許状は5単位、2種免許状は4単位を取得することが義務付けられているが、履修学年、実習校種、実習時期、実習内容

などに関する具体的な規程はない。そのため、養護実習を修了した学生は養護実習において保健室での基本的職務については学ぶことはできたが、学校保健活動の具体的な進め方などについて学ぶことは困難であったという調査⁴⁾があり、養護実習での経験が卒業後の教員として進路に影響を与えていると考えられている⁵⁾。

同時に、養護実習を指導する学校現場の養護教諭に対する指導者研修制度やカリキュラムは少なく⁶⁾、情報不足や経験不足から、「実習生への指導が養護教諭免許状を取得する内容として十分かつ漏れがなく、そして実習成果を正しく評価できているか」という不安を抱いている養護教諭が多いという現状がある⁷⁾。

養護教諭を含め教員免許状取得者は必ずしも「教員として就職すること」を目指しているわけではない。文部科学省が公表している「国立の教員養成大学・学部及び国私立の教職大学院の令和2年3月卒業者及び修了者の就職状況等⁸⁾」によると、2020年3月に国立の教員養成

*ライフデザイン学部健康スポーツ学科

大学・学部（教員養成課程）を卒業した者の教員就職率は64.4%で、教員免許状を取得するための学びの中で自分の適性や採用試験の難しさなどに気付き、教員免許状を取得したが就職先として学校現場を選ばない学生も一定数いることが示唆されている。

そこで、本研究では養護教諭免許状の取得を目指す大学生を「養護教諭としての就職希望者」と「一般職への就職希望者」にわけ、養護実習により実習校から付与された成績、実習生自身による自己評価、実習生の実習での学びに対する自己評価などから養護実習の成果が卒業後の進路希望とどのような関連性を持つのか分析を行った。そして、実習生と指導養護教諭に双方にとって望ましい養護実習について検討を行った。

2. 対象と方法

対象者は、養護教諭一種免許状の取得を目指す福祉系大学の大学生で、2019年度および2020年度に養護実習を履修した4年生（2019年度22名：小学校6名・中学校9名・高等学校7名）（2020年度8名：小学校4名・中学校2名・高等学校1名・特別支援学校1名）の合計30名であった。

方法は養護実習終了後の教職実践演習に実習校へ依頼している成績票と同じものを学生へ配布し、自分の養護実習の自己評価を依頼した。調査時期は2019年度2020年度ともに教職実践演習の最終授業回（1月末）で、授業時に倫理的配慮に関する説明を行い、同意を得た上で調査を行った。

成績票は5段階評価で評価項目は「教育への熱意と実習意欲」「生徒との触れあい」「保健室経営能力」などの8項目である。結果を「養護教諭として就職を希望する学生：教員採用試験を受験し、卒業後も講師などで養護教諭としての採用を希望した学生」と「一般職への就職を希望する学生：教員採用試験を受験せず一般職への就職活動のみを行った学生」に分けて分析した。

同時に大学独自に行っている「実習態度」「教育的能力」「勤務状況」に関する12項目への5段階の自己評価も同

様に「養護教諭希望者」と「一般職希望者」に分けて分析を行った。

3. 結果

対象者30名のうち、養護教諭として就職を希望する学生は18名（60.0%）、一般職への就職を希望する学生は12名（40.0%）であった。

実習校へ評価を依頼している項目は下記の8項目で、「5.優れている」「4.やや優れている」「3.普通」「2.やや劣る」「1.劣る」の5段階評価である。

- ①教育への熱意と実習意欲：学校における教育問題に積極的な関心を示し、自主的・協力的に教育活動を進めようとしたか
- ②生徒との触れあい：児童・生徒との相互理解を深めるため、親しく話し合ったり、生徒の中にとけこもうとしたか
- ③保健室経営：保健室の役割や機能を的確、適切に理解しているか。来室した児童生徒へ適切な処置、指導、支援活動を行うことができたか
- ④表記表現力：自分の考えや意志を、正しいことば・文字・その他の表現手段で明瞭にわかりやすく表現できたか
- ⑤養護教諭職務：養護教諭の職務・専門性について十分理解しているか。養護教諭に必要な資質能力は適切であるか
- ⑥保健指導の技術：健康問題に関する情報収集・把握し必要とする保健指導に結び付け具体的に活動することができたか
- ⑦事務能力：学級経営上の事務処理等がうまくできたか。実習記録、その他の書類などを的確に記述し、期限内に提出したか
- ⑧勤務態度：常にきまり正しく、誠意をもって仕事に従事したか。実習中、指導教諭などの指導・助言にしたがい自己研鑽に努めたか

(1) 実習校から付与された養護実習の成績

全8項目の評価平均は、総数平均が4.4、養護教諭希望者が4.5、一般職希望者が4.2であった（表1）。

①教育への熱意と実習意欲

総数平均が4.7、養護教諭希望者が4.8、一般職希望者が4.5であった。

②生徒との触れあい

総数平均が4.5、養護教諭希望者が4.7、一般職希望者が4.3であった。

③保健室経営

総数平均が4.1、養護教諭希望者が4.3、一般職希望者が3.9であった。

④表記表現力

総数平均が4.2、養護教諭希望者が4.4、一般職希望者が4.0であった。

⑤養護教諭職務

総数平均が4.1、養護教諭希望者が4.3、一般職希望者が3.7であった。

⑥保健指導の技術

総数平均が4.4、養護教諭希望者が4.4、一般職希望者が4.3であった。

⑦事務能力

総数平均が4.3、養護教諭希望者が4.3、一般職希望者が4.3であった。

⑧勤務態度

総数平均が4.7、養護教諭希望者が4.9、一般職希望者が4.5であった。

表1 実習校による成績評価の平均

	総数	養護教諭	一般職	χ^2 ・検定
①教育への熱意と実習意欲	4.7	4.8	4.5	ns
②生徒との触れあい	4.5	4.7	4.3	ns
③保健室経営	4.1	4.3	3.9	ns
④表記表現力	4.2	4.4	4.0	ns
⑤養護教諭職務	4.1	4.3	3.7	*
⑥保健指導の技術	4.4	4.4	4.3	ns
⑦事務能力	4.3	4.3	4.3	ns
⑧勤務態度	4.7	4.9	4.5	ns
総数	4.4	4.5	4.2	ns

*:p<0.05 **p<0.01

「養護教諭希望者」と「一般職希望者」の成績に有意差があった項目は「⑤養護教諭職務」のみであった（p<0.05）。

(2) 実習生による養護実習成績の自己評価

全8項目の評価平均は、総数平均が3.5、養護教諭希望者が3.6、一般職希望者が3.4であった（表2）。

①教育への熱意と実習意欲

総数平均が3.9、養護教諭希望者が4.2、一般職希望者が3.6であった。

②生徒との触れあい

総数平均が3.9、養護教諭希望者が3.8、一般職希望者が4.1であった。

③保健室経営

総数平均が3.1、養護教諭希望者が3.2、一般職希望者が3.0であった。

④表記表現力

総数平均が3.0、養護教諭希望者が3.2、一般職希望者が2.8であった。

⑤養護教諭職務

総数平均が3.2、養護教諭希望者が3.3、一般職希望者が2.9であった。

⑥保健指導の技術

総数平均が3.2、養護教諭希望者が3.2、一般職希望者が3.1であった。

⑦事務能力

総数平均が3.8、養護教諭希望者が3.9、一般職希望者が3.6であった。

⑧勤務態度

総数平均が4.2、養護教諭希望者が4.3、一般職希望者が3.9であった。

表2 実習生による成績自己評価の平均

	総数	養護教諭	一般職	χ^2 ・検定
①教育への熱意と実習意欲	3.9	4.2	3.6	*
②生徒との触れあい	3.9	3.8	4.1	ns
③保健室経営	3.1	3.2	3.0	ns
④表記表現力	3.0	3.2	2.8	ns
⑤養護教諭職務	3.2	3.3	2.9	*
⑥保健指導の技術	3.2	3.2	3.1	ns
⑦事務能力	3.8	3.9	3.6	ns
⑧勤務態度	4.2	4.3	3.9	ns
総数	3.5	3.6	3.4	*

*:p<0.05 **p<0.01

「養護教諭希望者」と「一般職希望者」の成績に有意差があった項目は「①教育への熱意と実習意欲」「⑤養護教諭職務」「全項目平均」であった (p<0.05)。

(3) 実習校による成績評価と実習生の成績自己評価の差異

実習校から付与された成績から実習生の成績自己評価を引いた差異を求めた。

全8項目の評価平均は、総数平均が0.8、養護教諭希望者が0.9、一般職希望者が0.7であった (表3)。

①教育への熱意と実習意欲

総数平均が0.7、養護教諭希望者が0.6、一般職希望者が0.9であった。

②生徒との触れあい

総数平均が0.6、養護教諭希望者が0.8、一般職希望者が0.3であった。

③保健室経営

総数平均が1.1、養護教諭希望者が1.1、一般職希望者が0.9であった。

④表記表現力

総数平均が1.2、養護教諭希望者が1.2、一般職希望者が1.3であった。

⑤養護教諭職務

総数平均が1.0、養護教諭希望者が1.0、一般職希望者が0.7であった。

⑥保健指導の技術

総数平均が1.2、養護教諭希望者が1.2、一般職希望者が1.2であった。

⑦事務能力

総数平均が0.5、養護教諭希望者が0.4、一般職希望者が0.7であった。

⑧勤務態度

総数平均が0.6、養護教諭希望者が0.6、一般職希望者が0.6であった。

表3 実習校による成績評価と実習生の成績自己評価の差異

	総数	養護教諭	一般職	χ^2 ・検定
①教育への熱意と実習意欲	0.7	0.6	0.9	ns
②生徒との触れあい	0.6	0.8	0.3	ns
③保健室経営	1.1	1.1	0.9	ns
④表記表現力	1.2	1.2	1.3	ns
⑤養護教諭職務	1.0	1.0	0.7	ns
⑥保健指導の技術	1.2	1.2	1.2	ns
⑦事務能力	0.5	0.4	0.7	ns
⑧勤務態度	0.6	0.6	0.6	ns
総数	0.8	0.9	0.8	ns

*:p<0.05 **p<0.01

すべての項目で「養護教諭希望者」と「一般職希望者」の成績に有意差は認められなかった (p<0.05)。

(4) 大学独自項目による実習生の自己評価

大学独自に行っている「実習態度」「教育的能力」「勤務状況」に関する合計12項目を、「5.よくできた」「4.ほぼできた」「3.普通」「2.ややできなかった」「1.できなかった」の5段階で学生に自己評価するように依頼した。

実習態度 (3項目)：礼儀作法、言葉づかい・身だしなみ、責任感
教育的能力 (6項目)：学校教育・学校保健の理解、子ども理解、保健室経営能力、保健活動の技術・能力、保健教育・保健指導、実習記録の処理
勤務状況 (3項目)：出勤状況、勤務態度、教職員との人間関係

全12項目の評価平均は、総数平均が3.8、養護教諭希望者が3.9、一般職希望者が3.5であった (表4)。

①礼儀作法

総数平均が4.3、養護教諭希望者が4.5、一般職希望

者が4.0であった。

②言葉づかい・身だしなみ

総数平均が3.6、養護教諭希望者が3.9、一般職希望者が3.1であった。

③責任感

総数平均が4.1、養護教諭希望者が4.3、一般職希望者が3.8であった。

④学校教育・学校保健の理解

総数平均が3.6、養護教諭希望者が3.8、一般職希望者が3.3であった。

⑤子ども理解

総数平均が3.7、養護教諭希望者が3.8、一般職希望者が3.5であった。

⑥保健室経営能力

総数平均が2.9、養護教諭希望者が2.9、一般職希望者が3.0であった。

⑦保健活動の技術・能力

総数平均が2.9、養護教諭希望者が3.1、一般職希望者が2.5であった。

⑧保健教育と保健指導

総数平均が3.3、養護教諭希望者が3.4、一般職希望者が3.2であった。

⑨実習記録の処理

総数平均が3.6、養護教諭希望者が3.6、一般職希望者が3.5であった。

⑩出勤状況

総数平均が4.8、養護教諭希望者が4.9、一般職希望者が4.5であった。

⑪勤務態度

総数平均が4.4、養護教諭希望者が4.7、一般職希望者が4.0であった。

⑫教職員との人間関係

総数平均が4.2、養護教諭希望者が4.5、一般職希望者が3.8であった。

表4 独自項目の自己評価

	総数	養護教諭	一般職	χ^2 ・検定
①礼儀・作法	4.3	4.5	4.0	**
②言葉づかい・身だしなみ	3.6	3.9	3.1	**
③責任感	4.1	4.3	3.8	ns
④学校教育・学校保健の理解	3.6	3.8	3.3	*
⑤子どもの理解	3.7	3.8	3.5	ns
⑥保健室経営の能力	2.9	2.9	3.0	ns
⑦保健活動の技術・能力	2.9	3.1	2.5	*
⑧保健教育・保健指導	3.3	3.4	3.2	ns
⑨実習記録の処理	3.6	3.6	3.5	ns
⑩出勤状況	4.8	4.9	4.5	ns
⑪勤務の態度	4.4	4.7	4.0	**
⑫教職員との人間関係	4.2	4.5	3.8	*
総数	3.8	3.9	3.5	**

*:p<0.05 **p<0.01

「養護教諭希望者」と「一般職希望者」の成績に有意差があった項目は「①礼儀作法」「②言葉づかい・身だしなみ」「⑩勤務の態度」「全項目平均」が有意水準p<0.01、「④学校教育・学校保健の理解」「⑦保健活動の技術・能力」「⑫教職員との人間関係」が有意水準p<0.05で有意差が認められた。

4. 考察

現在、養護教諭免許状の取得を目指す学生にとって、どのような養護実習を行うのが望ましいかを考える手引きとして、2008年に日本教育大学協会全国養護教諭部門研究委員会が提案した「養護教諭の資質向上を目指したモデル・コア・カリキュラム⁹⁾」がある。この提案では養護実習を含む臨地実習の目標は「学校教育の場で子どもと直接かかわり、養護実践について学び必要な技術・態度を修得する。また大学で学んだ理論を臨地で実証し研究するとともに、研究して得られた成果を一般化する実践と研究の相互関連を学ぶ。さらに自らの適性をはかり、教育専門職としての自覚を深め資質の向上をはかる」と明記されている。その後、2017年の教員免許法及び同施行規則に基づき全大学の教職課程で共通に履修すべき資質能力を示した「教職課程コアカリキュラム¹⁰⁾」が作成された。しかし、養護実習のコアカリキュラムは提示されなかったため、2020年に日本養護教諭養成大学協議会が、文部科学省の新教職課程を参考として「養護教諭養成課程コアカリキュラム（養大協版）2020¹¹⁾」を作成した。これは養護教諭養成課程において卒業時に

必要な力を明確に示す内容となっており、現在、養成課程で広く活用されている。

このような流れにより、養護教諭を目指す学生が「養護教諭として求められる資質・能力を得るために、大学で何をどのように学び、どのような準備をして養護実習に臨むべきか」という方向性は示されるようになり、実習生が養護実習でどのような学びを得たのか、どのようなことに不安を感じたのかなどに関する研究が見られるようになった¹²⁾。

特に養護教諭の職務の中心である「応急手当」に関する実習生の不安は高く¹³⁾、実習後の自己評価が低い項目の一つになっている。

本研究では養護実習の成績評価を、卒業後に「養護教諭としての就職を希望する者」と「一般企業等への就職を望者」に分けて検討した。その結果、実習校から付与された成績では「養護教諭職務」が、実習生の成績への自己評価では「教育への熱意と実習意欲」「養護教諭職務」が養護教諭希望者のほうが一般職希望者より有意に高得点であった。養護教諭の職務には応急手当などが含まれることより、将来の保健室勤務を見据えて養護教諭の職務を学ぶことが出来たかは、実習成績に影響を与えていることが示唆された。

また、実習校から付与された成績と実習生の自己評価の差異を分析した結果、全8項目において「養護教諭希望者」と「一般職希望者」に有意差は認められなかった。しかし、実習校からの成績は「2」だが実習生の自己評価は「5」など、実習校と実習生に大きな差異がある項目も見られ、実習指導者が実習生を評価することの困難さが明確となった。

現在、日本では、看護師養成における臨床実習や社会福祉士養成における相談援助実習の担当指導者は「実習指導者の要件」が示されている¹⁴⁾。しかし、学校における養護実習や教育実習などの指導教員は資格や要件などの明確な規定はない。2018年に横浜市教育委員会が「教育実習サポートガイド¹⁵⁾」を掲示しているが、今後、実習を受け入れる指導者へ研修や支援体制を整えることが

必要であると思われる。

また、大学独自に行っている「実習態度：礼儀作法や言葉づかいなど」「教育的能力：学校教育の理解や学校保健活動など」「勤務状況：他の教職員との人間関係の構築など」に関する実習生の自己評価を行った結果、「礼儀作法」「言葉づかい・身だしなみ」「学校教育・学校保健の理解」「保健活動の技術・能力」「勤務の態度」「教職員との人間関係」「全項目平均」の7項目において養護教諭希望者のほうが一般職希望者より有意に高得点であった。「実習態度」、「教育的能力」、「勤務状況」の全てカテゴリーにおいて、養護教諭希望者のほうが実習に挑む姿勢が望ましく、充実した養護実習となったことが示唆された。

また、各大学が実習生へ配布している「養護実習の手引き」について、約1/3の学生が「わかりにくい」と回答している調査¹⁶⁾がある。このことより、「実習態度」「教育的能力」「勤務状況」などがより明確にイメージできるような手引きを用いて事前指導を行うことが、実習生、実習指導者の双方にとってより有意義な養護実習になると考えられた。

5. まとめ

養護教諭免許状の取得を目指す大学生を「養護教諭としての就職希望者」と「一般職への就職希望者」にわけ養護実習による学びを検討した。その結果、養護教諭希望者のほうが実習に積極的に取り組み、「教育への熱意と実習意欲」と「養護教諭の職務」に関して高い自己評価をしていることがわかった。しかし、実習生の自己評価には有意差が見られたが、実習校から付与された成績については、8項目中「養護教諭の職務」以外に有意差は認められず、実習生と実習指導者の認識に差異があった。

また、このような観点で養護実習を評価している研究は少ないため、本研究は今後の養護教諭養成校において実習生の実習態度や学びの要素を検討してく一資料になると考える。

教員免許状取得者は必ずしも教員にならなければいけないという決まりはない。しかし、実習校が実習生を受け入れる負担や不安を考慮すると、教員養成校でのカリキュラムが養護実習や教育実習という臨地実習の経験と融合され、卒業後の進路として学校教員に繋がるように、今後、さらなる検討を重ねていく必要性が示唆された。

参考文献

- 1) 文部科学省HP：養護教諭の免許資格を取得することのできる大学. https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoin/daigaku/detail/1287086.htm (2020年11月5日閲覧)
- 2) 文部科学省HP：平成30年度教員免許状授与件数等調査結果について. https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoin/1413991_00001.html (2020年11月5日閲覧)
- 3) 文部科学省：教育職員免許法施行規則（昭和二十九年文部省令第二十六号）「第1章単位の修得方法等」第9条. 令和元年6月7日施行
- 4) 石原昌江, 野村梨香:岡山大学における養護実習の現状と課題. 岡山大学教育実践総合センター紀要 1. 89-98. 2001
齋藤千景, 竹鼻ゆかり, 朝倉隆司他：養護実習における学生の目標達成度、満足度に関連する要因. 学校保健研究60. 233-241. 2018
- 5) 吉田安規良, 和氣則江：養護教諭志望学生の「まだ足りていないところ」という自己評価結果からみた教職に対する意識や自己課題と養護教諭養成カリキュラムの改善の方向性：琉球大学における教職実践演習受講生の自己評価から. 琉球大学教育学部紀要 (91). 195-206. 2017
- 6) 日本養護教諭養成大学協議会:教育課程（カリキュラム）検討委員会報告. 日本養護教諭養成大学協議会委員会報告書. 7-18. 2008
- 7) 三森寧子, 齋藤千景, 竹鼻ゆかり他：実習指導を初めて行う養護教諭の不安と困難. 千葉大学教育学部研究紀要第68巻. 53-58. 2020
竹鼻ゆかり, 朝倉隆司, 渡邊正樹他：養護実習における学生と養護教諭の学びの検討. 東京学芸大学紀要芸術・スポーツ科学系62. 55-61. 2010
- 8) 文部科学省：国立の教員養成大学・学部及び国私立の教職大学院の令和2年3月卒業者及び修了者の就職状況等について. https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kyoushoku/kyoushoku/1413296_00002.htm (2021年2月27日閲覧)
- 9) 齊藤ふくみ, 竹鼻ゆかり, 塩田瑠美：E領域「臨地における実地研究，養護教諭の資質向上を目指したモデル・コア・カリキュラムの提案 (3)」。16-17. 日本教育大学協会全国養護教諭部門研究委員会. 2008
- 10) 教職課程コアカリキュラム：教職課程コアカリキュラムの在り方に関する検討会. 2017
- 11) 日本養護教諭養成大学協議会：養護教諭養成課程コアカリキュラム（養大協版）2020. 2020
- 12) 齋藤千景, 竹鼻ゆかり：養護実習における学生の学びの要素. 東京学芸大学紀要芸術・スポーツ科学系70. 177-183. 2018
- 13) 鈴木郁美, 河田史宝, 大森智子他：養護実習における学生の経験と不安内容—教育系養護教諭養成課程に着目して—. 茨城大学教育実践研究29. 165-177. 2010
飯嶋亮子：養護教諭養成における救急処置能力の教育課題. 東北福祉大学教職課程支援室 教職研究 (2017). 1-9. 2018
- 14) 厚生労働省HP：看護師等養成所の運営に関する指導ガイドラインについて. https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=00tc1593&dataType=1&pageNo=1 (2020年11月5日閲覧)
厚生労働省HP：社会福祉に関する科目を定める省令. https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=82aa9776&dataType=0&pageNo=1 (2020年11月5日閲覧)
- 15) 横浜市教育委員会：教育実習サポートガイド【養護教諭編】. 2018
- 16) 山田浩平, 福田博美, 岡本陽：養護教諭養成大学における養護実習の手引きの内容とその評価. 愛知教育大学教職キャリアセンター紀要Vol.3. 9-18. 2018